



採集

九鬼周造の「押し花」標本資料

図書館ドリフト

新刊紹介

図書館からのお知らせ

九鬼周造の「押し花」標本資料

図書館長 谷口文章

「私は中學の一年から三年頃迄は植物学者になるつもりであつた。その當時は植物學に關する書物を買つて貰ふのが一番うれしかつた。大學で文學部を卒業して間もなく私はもう一度理學部へ入學して植物を専攻しようと思つたこともあつた。植物の採集は中學時代にはかなりほん氣で、帝室博物館の植物主任S氏に指導して貰つてゐた。今でも當時集めた標本が藏にしまつてある。高等學校時代にも日光の白根山などへ植物採集に出かけたこともあつた。大學を出て數年後チブスにかかつてその保養の時期にまた植物熱が出て宮ノ下の富士屋ホテルに泊まつてゐた私は箱根の植物をあさつて來てはホテルの一室で押したものであつた。ハイデルベルグへ遊學してゐた當時夏休みをアルプス山中で暮らしたことがあつた。その時は毎日を植物の採集と標本の制作とで過ごしてしまつた。」(全集第5巻217頁)

九鬼は、明治33年(1900年)に、東京高等師範学校附属中学校に入学(12才)するが、中学1年から3年頃までは植物学者になるつもりでいた。その思いが、九鬼文庫には、「押し花」の標本資料として105枚が保管されている。

それは大正2年(1923年)8月から9月にかけて、アルプス山麓のSils地域で植物採集を行ない標本作りをしたものである。採集されてから90年余りになり、色彩もあせて保管状態もあまりよくなっている。そのために、CD-ROMにアーカイブ化することになった。詳細はCD-ROMによって甲南大学の図書館で見ることができる。彼の花の興味および標本技術がどのようなものであるかを示すための資料指針として公開されている。

なお、分類分けは、カナダ・ヴィクトリア大学環境学部教授 Nancy Turner 博士に CD-ROM から同定して頂いた。標本の分類分けとともに、どのような花々に九鬼が「いき」を感じていたかが、視覚的にできるようになったことを、ナンシー先生に感謝の意を表しておきたいと思う。ナンシー先生によると、九鬼はかなり専門的知識を身につけているとのことであつた。それは、次のような九鬼の言葉からも明らかである。

「アルプスで採集した植物は其後チューリッヒの専門学者に一々名をつけてもらつてそのままになつてゐた。それを京都の家で拵げだして一週二回の大學の講義の準備と準備の間に暇を作つて朝から晩まで何日間かかかつて臺紙にはりつけたり學名を書き入れたりしたことがあつた。」(同上)

CD-ROMには、「科 family」の33の分類分けと通し番号が示してある。番号は105枚の押し花標本と対応している。例えば、一番最初の「1. *Allosorus crispus*」は、「001.jpg」の写真と対応している。

本稿では、Ferns(non-flowering) (Pteridophytes; Polypodiaceae)の分類の四例の写真を挙げておこう。

1. *Allosorus crispus* “*Allosorus crispus*” Julier, Ober-Engadin 18.8.1923 (v small fern - finely divided leaves; two types: fertile and sterile)
2. *Asplenium viride* “*Asplenium viride*” Sils-Isola, Ober-Engadin 17.8.1923 (spleenwort; v small fern - finely divided leaves)
3. *Asplenium viride* “*Asplenium viride*” Sils, Ober-Engadin 25.8.1923 (v small fern - finely divided leaves)
4. *Blechnum spicant* “*Blechnum spicant*” Rigi bei Luzern 5.9.1923 (deer fern - spore-bearing fronds) (two feather-like fronds with v thin segments)



001.jpg



002.jpg



003.jpg



004.jpg